

令和6年度 江戸川区立南小岩第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎ 考える子【学習や生活のいろいろな場面で、本義、根拠の持てる子、正しく判断し、創意工夫する子】 ◎ 思いやりのある子【心で協働することにより喜びをもち、協力し合える子】 ◎ 健康な子【元気で心や体をくつくる子】	目指す学校像 ◎社会性を育て、自己肯定感を伸ばす学校 ◎保護者や地域に信頼される学校 目指す生徒像 ◎正しく判断し、創意工夫する子 ◎人と協働することにより喜びをもち、協力し合える子 ◎思いやりのある子 ◎心で協働することにより喜びをもち、協力し合える子 目指す教員像 ◎公平かつ持続的に授業改善に取り組む教員 ◎子どもの可能性を信じめきめ教員 ◎子どもを指導、養育、伸ばす教員 ◎公私をわきまえ、公務員として職務的に行動する教員
前年度までの本校の現状	成果 コンバーサルデザインの視点に立った授業改善を行った。 ICTや外部人材を活用した学力向上に関する取り組みを推進できた。	課題 学力向上・体力向上に関する取り組みを充実させていく。 読書科の年間指導計画を見直し、確実な実施を行っていく。 コンバーサルデザインの視点の授業改善をさらに進めていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		自己（学校）評価（A～D）		「年間」 学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の 向上	○基礎・基本の定着	・がんばるしん(算手帳)（計算）、二小算字等の取組の実施 ・家庭学習習慣の確立 ・放後学習教室、ススキリタイム（学童館放後補習）の実施 ・保護者ボランティアの協定による基礎タイムの実施 ・個別学習や家庭学習としてドリルワークやまるくプリントを活用 ・東京ページブックドリル、区立学び場での実施	・全学年、年4回、実施率100％ ・年3回、実施率80％程度 ・年3回の放後補習20分程度 ・毎週火曜日、朝11時～15分 ・週1回以上、日曜日に活用 ・3年以上、各学年1回 ・保護者満足度90％以上	A	A	A	・がんばるしん3冊、算字書1冊を実施した。 ・毎月、9月のスタディワークを実施している。 ・放後補習教室、ススキリタイムは予定通り実施している。 ・ドリルワークは個別学習や家庭学習で日常的に活用した。 ・1学期初、東に東京ページブックドリル、区立学び場を使用した。 ・6年生全学年学力調査の昨年度より、国算科に2.5分以上高かった。	A	・長い取り組みだと思ふ。 ・給食時間短縮に充実を感じる。 ・今年度は、満足度の高い部分の評価が得られる機会があるのは助かると思う。 ・放後補習教室、ススキリタイム等、子供にとってありがたい。 ・保護者も家庭での学力に力を入れてほしい。 ・色々と工夫がされている。さらに充実するよう指導をお願いしたい。	A	・がんばるしん、算字書、スタディワークは100％実施した。 ・放後補習教室、ススキリタイム、基礎タイムは計画通り実施できた。 ・今年度は4～6年生の区学力調査を実施し、分析結果をもとにドリルワークで補完をした。	A	・個別対応に努力を傾けているところに感謝します。放後補習教室を、有意義に思っています。 ・今年度の授業に参考になるような情報もあり、児童も家庭においても励みになっている。	・学力向上の結果として、ドリルワークに連携させて、繰り返し練習を取り組む。
	○返読指導の実践	・巡回指導教員、特別支援教師T（イキナ）。特別支援教室専門員及び各担任との情報共有、個別指導への活用 ・保護者への理解の促進、PR	・毎日実施、情報共有実施率100％ ・毎学期実施、当該保護者満足度90％以上	A	A	A	・毎担任について情報共有を行っている。 ・1学期に巡回指導の保護者会を実施した。	A	・年間を通して、密に情報共有を行うことができた。 ・特別支援教室に関して肯定的回答をした保護者が80％だった。	A	・年始めから懇話會對面している様子を見えてきた。 ・素直になり取り組みの中、保護者の理解も徐々に満足度も高まっているように感じている。	・特別支援教育の保護者理解を、より一層深めていく。		
	○教科書の更なる充実	・年間指導計画に基づく読解能力UPで紹介 ・読書意欲の向上 ・読書への関心を高める「よむYOMUワークショップ」の実施 ・図画カード仕様の円滑な推進	・各学年、年3回更新 ・読書本2冊以上読むこと、読書期間年2回、読めどけきボランティアや専任職員実地実施 ・4年生以上、年30回 ・1学期中に完了 ・学校関係者評価A	B	B	B	・70％の学年が年3冊を超えている。 ・読書本、読めどけきボランティアは予定通り実施した。 ・よむYOMUワークショップの実施率は1学期の計画通りすべて実施した。 ・パークコートに向けた準備を実施中。	B	・豊富な図書回覧の準備を速く思う。 ・読解力が伸びてほしい。 ・読書、読み聞かせボランティア等の活動が功を奏し、少しでも本好きにならざることを望む。 ・家庭でも親子での読書に努めるようにしてほしい。 ・他の項目に比べ、達成度が低いように感じる。	B	・計画通りやり直しを行い、情報発信をすることができている。 ・読書タイム、読書週間、読み聞かせは全学年実施できた。 ・よむYOMUワークショップは、目を重ねること、スムーズに行えるようになった。 ・図書館の本がバーコード化され、読破なく運用している。	・読書意欲の向上を図るため、読み聞かせ、読書タイム、よむYOMUワークショップの進捗的な実施をしていく。		
	○運動遊びや基礎体力の向上	・ミニタイム（運動遊び）の実施 ・運動遊びを生かす為、体力テストの結果分析 ・江戸川ついで純粋ワーク（短編）こびりゅん大会（短編、長編）の実施 ・学習中の行事（運動会、長縄、持久走）の継続実施	・年間、毎週水曜日 ・2学期以降実施 ・年3回、実施率100％ ・各学年及び練習開始実施率100％ ・保護者満足度90％以上	A	A	A	・運動会や父子イベントにおける児童の活発な様子に感心した。 ・とても楽しそうに活動している。 ・今年度は運動会に向けての準備が整った。 ・今年は猛暑が続く先生方も苦労されたと思うが、児童たちの積極的な参加も嬉しい。運動会等で評価が良いことが多かった。 ・猛暑により運動する機会が減り、体力が減ることが心配される。	A	・後期は計画通りに実施できなかった。 ・体力テストの結果が昨年年度より8.8%改善し、女子は中学校中で最上位となることができた。 ・今年度は運動会に向けての準備も万全で、本年度のミニタイムで行う運動を練習していた。 ・2、3学期も継続してワークを実施し、作成した取組めた事が増えた。 ・持久走大会、長縄記録会、ひょんぷん大会も予定通り実施した。自分で掲げた目標に向かって努力する姿がたくさん見られた。	A	・先年同様健康増進に役立てていた。 ・冬の取組に、児童も積極的に参加し、体力向上が見受けられる。	・体力テストの結果を踏まえ、ミニタイムの運動遊びの内容を再考検討していく。		
教育の 推進 （共生社会の 実現）	○特別支援教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点での学習環境整備 ・ユニバーサルデザインを視点とした校内研究 ・支援シートによる個別士に対する対応 ・副教材交換の計画の実施	・教室環境、言語環境整備100％ ・年11回実施 ・対象児童保護者の満足度90％以上 ・副教材交換の計画の実施	A	A	A	・全校で統一して、教室環境を整備した。 ・9月末までに4回の校内研究を実施した。 ・副教材交換計画通りの実施中。	A	・副教材交換の計画通りに実施しており素晴らしい。 ・是非とも継続して頂きたい。	A	・年間7回の研究授業を通して、ユニバーサルデザインの視点に立ち、授業改善を行う事ができた。 ・対象児童保護者の肯定的回答は、90％以上だった。	・継続をおねがいしいい。 ・肯定的回答がアップし、満足度が見受けられる。	・学びのユニバーサルデザンを次年度も研究テーマとする。	
	○体系的活動、自主活動の推進	・地域人材、外部人材を活用した共生社会実現に向けた教育の推進 ・たわわり社（異学年交流）の実施 ・あいさつ人、歌あじょう運動会の実施 ・高齢者全員による終業後の集まり	・異学年交流 ・異学年交流年間計実施率100％ ・あいさつ人、歌あじょう運動会 ・区内府庁等への参加	A	A	A	・11月の全校通達に向けて、たわわり社活動を推進した。 ・あいさつ人、歌あじょう運動会は遠年実施した。	A	・たわわり社は上下関係を身近に経験できる良い学びの機会だと感じた。 ・今年度は、外部人材の活用により、児童も楽しそうに生き生き参加している様子を察知する。 ・とてもよい活動なので、今後も大切にしていきたい。	A	・12月、2月に外部講師を招き、共生社会実現に向けた授業を行った。 ・今年度は外部講師と連携して実施できた。 ・お名前が正しいものになった。代表委員であるあいさつ運動は、計画通り実施できた。	・2月の自治地区公開講座、素晴らしい機会が、持ちこんでいただいた。 ・地域の人材、外部人材を活用しての企画、協議など今後とも継続してほしい。	・地域人材、外部人材の活用を推進させ、2回目の自治地区公開講座を開催し、今後の活動を進めたい。	
	○子どもたちの健全育成に向けた取り組み	・「Hyper-QU」の実施及び効果的活用、道徳教育の充実、いじめ防止対策の実施 ・校内委員会の効果的実施、全職員での支援体制の構築 ・特別支援関係に係る教員の指導方針に合わせた研修会の実施	・全学年、実施率100％ ・毎月実施 ・年3回、参加率100％	A	A	A	・Hyper-QU研修の実施、1学期にいじめ防止対策の10項目を実施した。 ・校内委員会では毎月実施している。 ・1日の出席率が90％以上であった。 ・SC、SSWとは関係なく、情報交換をしている。 ・1日の出席率を上げるために、いじめ対策委員会を設置した。生活指導連絡会では毎月行っている。 ・家庭とのSNSルールを作成した。	A	・道徳にも個人差はあるものだが、考え方を養い、友人との絆を育んで貰ってほしい。 ・全ての子どもが安心して過ごせるように、引き続き取り組みを続けていきたい。	A	・年3回のいじめ防止対策を実施した。 ・年間を通して校内委員会を開いた。 ・年3回の特別支援関係研修会を実施した。	・学校に頼るばかりでなく、保護者の見守りも大切にしてほしい。 ・思い通りの進捗だったが、子どもたちの健全性を確保していきたい。	・L-GATEによる毎日の記録をもとに、児童の様子を確認していく。	
	○関係機関との連携 （不登校への対応）	・SC（O）活動方針SSW（P）活動方針の策定、適切な活用 ・課題把握地点での情報共有、生活指導連絡会、各課題対策委員会の実施 ・SNS東京ルールへの徹底、家庭SNSルールでの家庭との連携	・情報共有率100％ ・1日の出席率が90％以上 ・事実上ほぼ毎日行っている。成果の検証 ・家庭との連携100％	B	A	B	・SC、SSWとは関係なく、情報交換をしている。 ・1日の出席率を上げるために、いじめ対策委員会を設置した。生活指導連絡会では毎月行っている。 ・家庭とのSNSルールを作成した。	B	・心の健康に関する指導が難しいと思うが、SNSはこれからの時代において必要不可欠なツールの一つとして、子どもたちにも必要であり、活用していただく機会を設けたい。 ・子どもたちにも安全に活用していただく機会を設けたい。 ・色々と要領が異なるので、対応が難しい。関係者を連携して問題解決に向けて、丁寧に対応して頂きたい。	A	・SC、SSWと密に情報共有ができた。特にSSWとながらみながら、情報共有ができた。 ・報告がある度に、いじめ防止対策委員会を開き、対応を協議した。	・様々な子どもが安心して登校していただけること、安心感や信頼感を感じている。 ・一人一人が真摯にやり取りし、対応が丁寧で、関係者との連携による問題解決を期待する。	・SC、SSWだけでは不十分で、関係者との連携を強化していく。 ・一人一人が真摯にやり取りし、対応が丁寧で、関係者との連携による問題解決を期待する。	
学校（園）と地域の 連携 （共生社会の 実現）	○地域との共育・協働	・HPT（ホビー・アート）等による情報公開 ・学校関係者との連携	・各学年、年2回以上 ・保護者満足度90％ ・学校関係者評価A	A	A	A	・計画通りHPTを実施している。またモデルによる情報共有を目下行っている。 ・図書室と連携して図書室の整備を考えている。	A	・いつもPTA関連で地域等との連携協力に力を感じている。 ・地域でのイベントに参加すること、交流も大いに感じている。	A	・保護者自らの都合の都合に対して、学校はいつでも丁寧に配慮していると感じる。 ・また、地域の関係者・PTA関連行事への教員の参加に、子どもたちにとっても喜んでいる印象があった。	・各学年、年2回以上の更新を確実に実施する。		
	○学校関係者評価の充実	・学校経営方針の保護者、学校関係者への周知・年度当初 ・保護者アンケートの実施、結果の周知 ・教職員及び学校関係者中間評価による方針の修正及び追加、年度末評価の実施による次年度改善案の立案	・年度当初 ・年2回（年2回）、各行事後（毎年）に実施し、1カ月前に結果通知 ・年2回、2月に実施後、改善案を立案 ・保護者の満足度80％以上 ・学校関係者評価A	A	A	A	・学校経営方針は保護者や学校関係者に周知し、説明した。 ・年2回のアンケートを実施した。 ・保護者アンケートの1項目を実施した。 ・中間評価を行っている。	A	・積極的な関わり方を意識して頂いており、素晴らしい。 ・資料の整理も大変丁寧で、学校関係者の方針を説明し、納得させる。関与を促す。 ・協力ができることが少なくないと感じる。	A	・計画通りに保護者アンケートを行い、分析結果と年度末の中間評価を照らし合わせている。 ・保護者アンケートにおける肯定的回答の平均は89％だった。	・学校関係者に対する期待が高まっている。 ・学校関係者に対する期待が高まっている。 ・学校関係者に対する期待が高まっている。		
	○学校における働き方改革プラン	・C4t hの積極的活用、ペーパーレス促進 ・各部署間による文書整理、各部署間による進行管理 ・会議の効率化の実施及び時間短縮 ・SSS（コア・チーム・ハコ）等の有効活用 ・定例運動会の実施 ・教科担任制の推進、協働体制 ・育児休業等休暇、休職制度の活用促進	・毎日、C4t h活用率100％ ・文書のペーパーレス率100％ ・15分以内、削減率100％ ・毎月1回実施、残業月40時間以内 ・5、6年は過半、1～4年は2回実施 ・教職員への周知100％ ・保護者満足度90％以上	A	A	A	・職員は毎日C4t hを活用している。 ・文書のペーパーレス率100％。 ・15分以内削減率100％以上かつ削減率も高かった。 ・削減率100％。 ・毎月1回実施、残業月40時間以内 ・5、6年は過半、1～4年は2回実施 ・教職員への周知100％ ・保護者満足度90％以上	A	・全体的な情報環境は望ましいと思う。また、教科担任制は子供の興味を引き出すこととされているので継続を望む。 ・削減率100％。 ・毎月1回実施、残業月40時間以内 ・5、6年は過半、1～4年は2回実施 ・教職員への周知100％ ・保護者満足度90％以上	A	・C4t hは目標値は100％活用している。 ・削減率100％は15分を超えることが多かったが、達成率が高い。 ・毎月1回実施、残業月40時間以内 ・5、6年は過半、1～4年は2回実施 ・教職員への周知100％ ・保護者満足度90％以上	・SSSの人材確保が確約のようですが、学校環境が継続的に安定出来ることを望んでいる。 ・働き方改革が進められ、効果が見えていく。	・働き方改革によって生まれた時間を、有効に使い、児童理解・学習環境に生かしている。	
	○教員の働き方向上	・巡回の指導計画に基づく指導計画の計画の実施及び反省の記載 ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業の実施 ・ICT関連教員研修会・年5回 ・各授業におけるICTの効果的活用	・毎週、活用率100％ ・ICT関連授業実施、区内小教員全員参加100％ ・年5回以上、実施率100％ ・毎日、活用率100％ ・保護者満足度90％以上	A	A	A	・巡回指導計画に基づき、指導計画の計画の実施及び反省の記載。 ・ユニバーサルデザインを視点とした授業の実施。 ・ICT関連教員研修会・年5回 ・各授業におけるICTの効果的活用	A	・巡回指導計画に基づき、指導計画の計画の実施及び反省の記載。 ・ユニバーサルデザインを視点とした授業の実施。 ・ICT関連教員研修会・年5回 ・各授業におけるICTの効果的活用	A	・巡回指導計画に基づき、指導計画の計画の実施及び反省の記載。 ・ユニバーサルデザインを視点とした授業の実施。 ・ICT関連教員研修会・年5回 ・各授業におけるICTの効果的活用	・巡回指導計画に基づき、指導計画の計画の実施及び反省の記載。 ・ユニバーサルデザインを視点とした授業の実施。 ・ICT関連教員研修会・年5回 ・各授業におけるICTの効果的活用	・巡回指導計画に基づき、指導計画の計画の実施及び反省の記載。 ・ユニバーサルデザインを視点とした授業の実施。 ・ICT関連教員研修会・年5回 ・各授業におけるICTの効果的活用	